

左から観音寺城跡大石垣・観音寺城伝御屋形跡高石垣・安土城跡大手道・安土城跡出土金箔瓦

「幻の安土城」復元プロジェクト・歴史セミナー
安土城築城 450 年記念
滋賀県立安土城考古博物館令和 8 年度春季特別展連携事業

安土山築城前夜～戦国乱世の城

プログラム

13:00～13:30 報告「特別展 安土山築城前夜～戦国乱世の城」

佐藤佑樹氏（滋賀県立安土城考古博物館学芸員）

13:30～14:30 講演「三好長慶の城・飯盛城」

李 聖子氏（大東市産業・文化部生涯学習課学芸員）

14:30～14:40 休憩

14:40～15:30 パネルディスカッション「安土山築城前夜～戦国乱世の城」

パネラー：李 聖子氏・佐藤佑樹氏

コーディネーター：松下浩（滋賀県観光文化スポーツ部文化財保護課副主幹）

日 時：令和 8 年（2026）5 月 31 日（日） 13:00～15:30

会 場：安土文芸セナリヨ 滋賀県近江八幡市安土町桑実寺 777

主 催：滋賀県（観光文化スポーツ部文化財保護課）

共 催：公益財団法人安土町文芸の郷振興事業団

発行日：令和 8 年（2026 年）5 月 31 日（日）

編集・発行：滋賀県観光文化スポーツ部文化財保護課

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目 1 番 1 号

TEL077-528-4678 FAX077-528-4956 E-Mail castle@pref.shiga.lg.jp

URL <https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunakasports/bunkazaihogo/>

「淡海の城」友の会

URL <https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunakasports/bunkazaihogo/312347.html>



「幻の安土城」復元プロジェクト・歴史セミナー
安土城築城450年・日伊外交関係樹立160周年

シンポジウム **バチカンと日本・東アジア** その歴史的交流

1581年（天正9年）、織田信長は安土を訪れたイエズス会宣教師アレッサンドロ・ヴァリニャーノに安土城と城下町を描いた「安土山図屏風」を贈りました。屏風は、その後天正遣欧使節の手によってローマ教皇グレゴリウス13世に贈られましたが、その後行方不明となり、現在もその所在は明らかではありません。

滋賀県では、安土城の実像を解明し、目に見える形にすることで、その魅力と価値を広く発信することを目的に「幻の安土城」復元プロジェクトを進めています。その中で、安土城を描いた唯一の絵画資料である「安土山図屏風」の探索にも取り組んでおり、屏風が贈られたバチカンとの交流を進めてまいりました。

このたび、バチカンから研究員をお招きし、長く屏風探索に取り組んでいるASRNのメンバーと一緒にシンポジウムを開催することとなりました。現地の資料の情報を聞くことができるまたとない機会です。多くの方のご参加をお待ちしています。

プログラム

講演「バチカンの日本・東アジア文化」

クララ・ユ・ドン氏（バチカン図書館）

パネルディスカッション「バチカンと日本・東アジア ～その歴史的交流」

パネラー

クララ・ユ・ドン氏

マーク・アードマン氏（メルボルン大学・ASRN）

ハイメ・ゴンザレス・ポラド氏（九州大学外国人特別研究員・ASRN）

藤川真由氏（明治大学・ASRN協力者）

アントン・シュバイツァー氏（九州大学・ASRN）

新保淳乃氏（武蔵大学・ASRN）

パオラ・カヴァリエレ氏（ミラノ大学・ASRN）

木戸雅寿（滋賀県観光文化スポーツ部文化財保護課）

コーディネーター

松下 浩（滋賀県観光文化スポーツ部文化財保護課）

参加申込方法

FAX・電話・メールに、住所（市まで）・氏名（ふりがな）・連絡先（携帯電話推奨）を記入の上、下記まで申し込み。

申込締切

令和8年6月18日（木）
午後5時

申込・問い合わせ先

滋賀県観光文化スポーツ部
文化財保護課
TEL077-528-4678
FAX077-528-4956
Mail
castle@pref.shiga.lg.jp

日時：令和8年6月21日（日）14時～16時30分 開場13時30分

会場：滋賀県男女共同参画センター 大ホール

滋賀県近江八幡市鷹飼町80-4 JR琵琶湖線近江八幡駅下車徒歩約8分

定員：400名（事前申込制 先着順 参加無料）

主催：滋賀県

後援：ミラノ大学  イタリア文化会館-大阪  

協力：安土山図屏風探索ネットワーク（ASRN）



三好長慶の城・飯盛城

大東市産業・文化部
生涯学習課 李 聖子

1 はじめに

飯盛城は享禄3年(1530)に細川晴元の被官である木沢長政の居城として文献上はじめて登場する。その後、城主は河内守護代の安見宗房を経て永禄3年(1560)に三好長慶が芥川城(高槻市)から入城し居城とした。今にのこる城郭遺構は最後の城主であった三好氏が整備したものだと考えられる。

2 飯盛城跡の立地と周辺の関連遺跡(図1)

1) 立地

○生駒山地の北端に位置する飯盛山(標高314m、麓からの比高約300m)に築城

北—比叡山・京都・八幡・北摂

南—和泉山脈

西—大阪平野一円、六甲山地、淡路島

*守護や戦国大名の居城と同様に支配する地域を俯瞰できる地であるとともに、支配地からは仰ぎ見られる地であった(中井均2020)

○水陸交通路の要衝に位置

北—清滝街道

西—東高野街道、深野池・新開池

南—中垣内越道

*飯盛山は当時の首都京都と国際都市・堺を結ぶメインルートに接していた

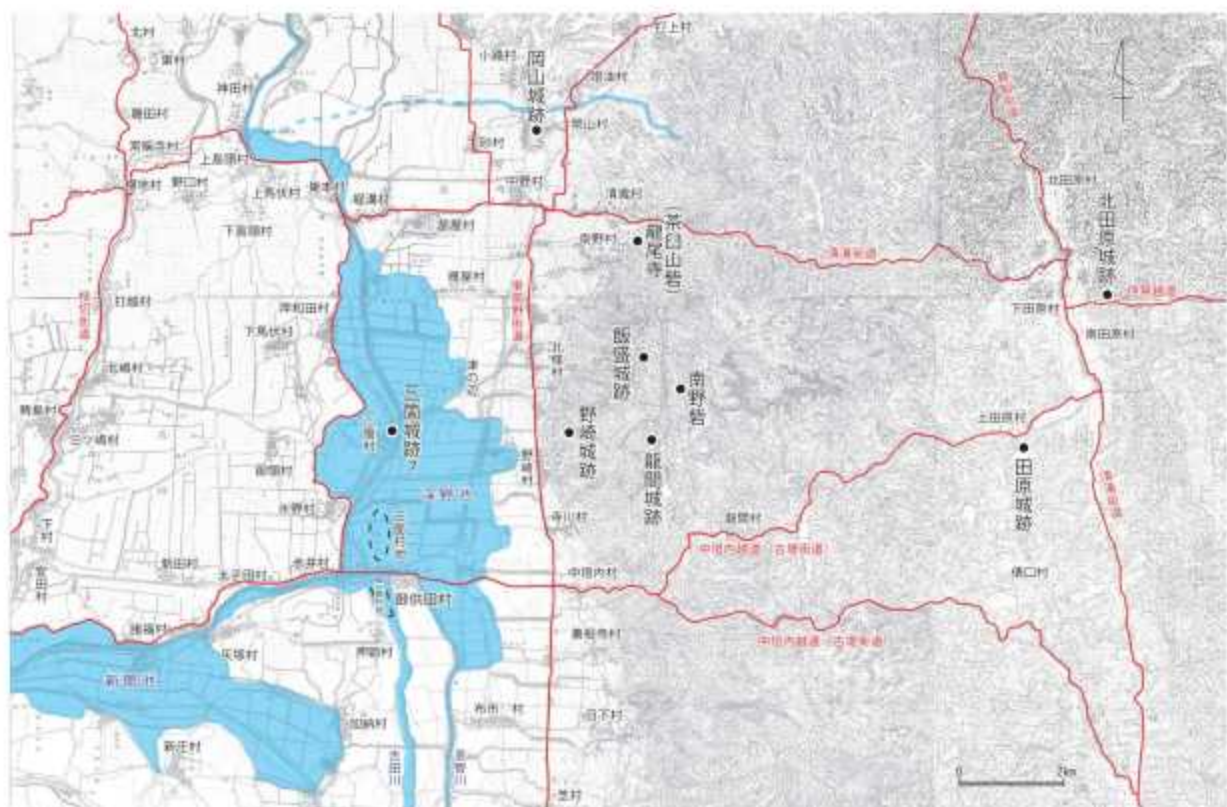


図1 飯盛城跡の関連城郭と街道

2) 周辺の関連遺跡 (図1)

城の周囲には本城である飯盛城を守るため支城が築かれている

東—南野砦、田原城、北田原城、権現山砦

西—三箇城

南—野崎城、龍間城

北—岡山城、清滝城、茶臼山砦、龍間城

3 城の規模と構造 (図2)

- ・東西約 400m、南北約 700m に及ぶ西日本有数の規模を誇る山城
- ・飯盛山の主尾根上に主要な曲輪群 (I 郭～X 郭) が構えられる。最高所に築かれた I 郭 (高櫓郭) の南側に構えられた堀切によって主尾根筋が遮断され、城の北エリアと南エリアに分かれる (中井均 2015)
- ・飯盛山の東斜面は西斜面と比較すると緩斜面であるため、帯曲輪や堀切などの防衛遺構を集中して配置
- ・虎口に至る尾根筋に堀切などの防衛遺構は確認できない

北エリア 主尾根上には I 郭から VI 郭、東西に延びる支尾根筋には曲輪群 A～F が築かれている
曲輪の面積が狭く、比高が大きい
石垣が集中して築かれている

南側エリア VII 郭 (千畳敷)・IX 郭 (南丸)・X 郭 (馬場) で構成
VII 郭を中心に広大な面積を有する曲輪を配置

虎口 城域外との出入りが想定される虎口は 2 箇所。
いずれも平入で複雑な構造ではない。鏡石としての役割が想定される巨石または大ぶりの石材を配している

・南エリア VII 郭南側 石垣 (石垣 30・31) を築いた虎口 (写真1)

・北エリア V 郭東側 石垣 41・42・91 を築いた虎口 (写真2)

4 飯盛城の石垣 (図2)

1) 分布状況

城域で 95 箇所石垣を確認。そのうち、調査で確認された飯盛城跡に伴う石垣は約 30 箇所
石垣は北エリアの東斜面に集中して築かれており、南エリアは虎口と谷部の曲輪の 3 箇所のみ

2) 石垣の構造

- ・自然石を用いた野面積み。石垣面の勾配は垂直に近く、背面には栗石が充填されているものもある
- ・高く積むために段築状となっているものや、構造を補強するために折れが作られている石垣も確認できる (写真 3・4)
- ・根石の石材は小ぶりなものを使用している (写真 11)

3) 石材の供給場所

石垣のそばにある露岩。飯盛山で採取した石材を使用していると考えられる

5 発掘調査成果

1) V 郭 (御体塚郭)

曲輪中央に露岩 (写真 5・6)。発掘調査では埴列建物跡と石組の建物跡が発見され特殊な台付皿
が出土⇒城内に作られた宗教空間であった可能性

丸瓦や雁振瓦が出土⇒建物の屋根の一部に瓦が葺かれていた

2) VII 郭 (千畳敷郭)・IX 郭 (南丸) (写真 7)

曲輪 (平坦面) は切土・盛土によって造成。尾根を大きく削平し、東西の谷斜面を埋めて幅を拡大 (図 3)

VII 郭の東斜面では 2m に及ぶ盛土を検出 (写真 7)。VII 郭・IX 郭では岩盤を削りだして土塁を構築

南エリアのⅧ郭・Ⅸ郭で礎石を確認し土壁が出土。また、日常生活道具（調理具）や茶道具が出土
⇒居住空間としての利用が推定される

5 調査成果

○山上居住の山城

南エリアのⅧ郭（千疊敷郭）で建物跡と日常生活用具が出土

⇒文献の記録と考古学の調査成果が一致。飯盛城に居住空間があったことが明らかに。

飯盛城は山麓に居館が想定されておらず、Ⅷ郭に居館があった可能性が高い。

北エリアのⅤ郭（御体塚郭）は宗教空間であった可能性

⇒屋根の一部に瓦を葺いた建物が建てられていたことが判明。

松永久秀が吉田兼右に飯盛城へ勧請する作法と費用を尋ねた園城寺の新羅善神堂か？

○本格的な石垣づくりの山城

南エリアで飯盛城の中で最長の石垣 88(写真 7) を発見。城域全体に石垣を築いている可能性

⇒土留めだけでなく、権威の象徴としても石垣を多用、永禄 3 年（1560）に入城した三好長慶によって改修・整備されたものと考えられる

○石垣・礎石建物・瓦を導入した城郭

○飯盛城の年代

出土遺物の大半が 16 世紀代。今回の一連の調査では城を破却した痕跡は認められなかった

遺構の最終年代⇒三好義継が若江城（東大阪市）に移り、飯盛城が城郭としての機能を失う

永禄 12 年（1569）頃と考えられる

おわりに

- ・木沢長政と安見宗房は河内北部の国境沿いに位置する飯盛城の特性を活かし大和や山城南部の支配を目指す
- ・守護の城であり、公的な格式を備えていた飯盛城を三好長慶が居城とし、五畿内のほか、丹波・淡路・讃岐といった広大な領地を支配するための政権の上位に位置する政権の本拠地となる。
- ・山上に居住空間・宗教空間を設け、本格的な石垣を城に取り入れた城
 - 山麓からの見上げた時の視覚的効果
 - 城主の威光を示す

<参考文献>

大東市教育委員会 2013 『飯盛山城跡測量調査報告書-VRS-GPS 測量による縄図作成』

大東市教育委員会 2016 『飯盛山城遺跡発掘調査概報-グラウンド造成・FM 送信所建設に伴う-』

中井均 1981a 『飯盛山城』『日本城郭体系』12 新人物往来社

中井均 1981b 『野崎城』『日本城郭体系』12 新人物往来社

中井均 1987 『飯盛山城』村田修三編 『図説中世城郭事典』3 新人物往来社

中井均 2013 『飯盛山城の構造と歴史的位置』『大阪春秋』149

中井均 2015 『飯盛城』中井均監修 / 城郭談話会編 『図解近畿の城郭』II 戎光祥出版

中井均 2020 『飯盛城の城郭史上における位置づけ』大東市教育委員会・四條畷市教育委員会 2020 『飯盛山城跡総合調査報告書』

中西裕樹 2015 『飯盛山城』仁木宏 / 福島克彦編 『近畿の名城を歩く』大阪・兵庫・和歌山編 吉川弘文館

吉田高子 2002 『日平野屋新田会所屋敷と建物』大東市教育委員会

大東市教育委員会・四條畷市教育委員会 2020 『飯盛山城跡総合調査報告書』

天野忠幸 2021 『三好一族一戦目最初の「天下人」』中公新書

飯盛城関連略年表

1530（享禄3）頃	細川晴元被官・木沢長政、飯盛城を居城とする。
1531・1532（享禄4・5）	畠山義宣、木沢長政の飯盛城を攻撃。
1536（天文5）	木沢長政、飯盛城から信貴山城（奈良県平群町）にうつる。
1537（天文6）	木沢長政、畠山在氏を河内守護に擁立。飯盛城は守護所となる。
1542（天文11）	木沢長政、遊佐・三好・本願寺と戦い、太平寺（柏原市）で敗死。両軍が飯盛山麓で衝突。
1543（天文12）	木沢の残党、飯盛城から大和方面に退く。
1551（天文20）	安見宗房、河内守護代となり飯盛城に入城。
1552（天文21）	安見宗房、飯盛城内で酒宴にことよせて萱振賢継を誅殺。
1559（永禄2）	安見宗房、高屋城に進出するが、長慶に攻められ飯盛城に退却。
1560（永禄3）	三好長慶、高屋城（羽曳野市）の畠山高政を破り、安見宗房を追放して河内を占領。芥川城（高槻市）から飯盛城に入る。松永久秀が吉田兼右に三好氏祖先の源義光が元服した園城寺の新羅善神堂を勧請する作法と費用を尋ねる。
1561（永禄4）	三好長慶、飯盛城で連歌会（飯盛千句）を催す。
1562（永禄5）	三好長慶、飯盛城で安見宗房や根来寺衆を迎え撃つ。
1564（永禄7）	宣教師ガスパル・ヴィレラや日本人修道士ロレンソ了斎、飯盛城で三好長慶の家臣73名を洗礼。 三好長慶、飯盛城で弟の安宅冬康を殺害。 三好長慶、飯盛城で死去。養子の義継が家督を継ぐ。
1565（永禄8）	宣教師ルイス・フロイス、飯盛城を来訪。 三好義継、飯盛城から高屋城にうつる。
1567（永禄10）	飯盛城、三好義継に対抗する三好三人衆の手にわたる。
1568（永禄11）	三好義継、將軍足利義昭から飯盛城を安堵される。
1569（永禄12）	三好義継、飯盛城から若江城（東大阪市）にうつり、飯盛城は城郭としての機能を失う。

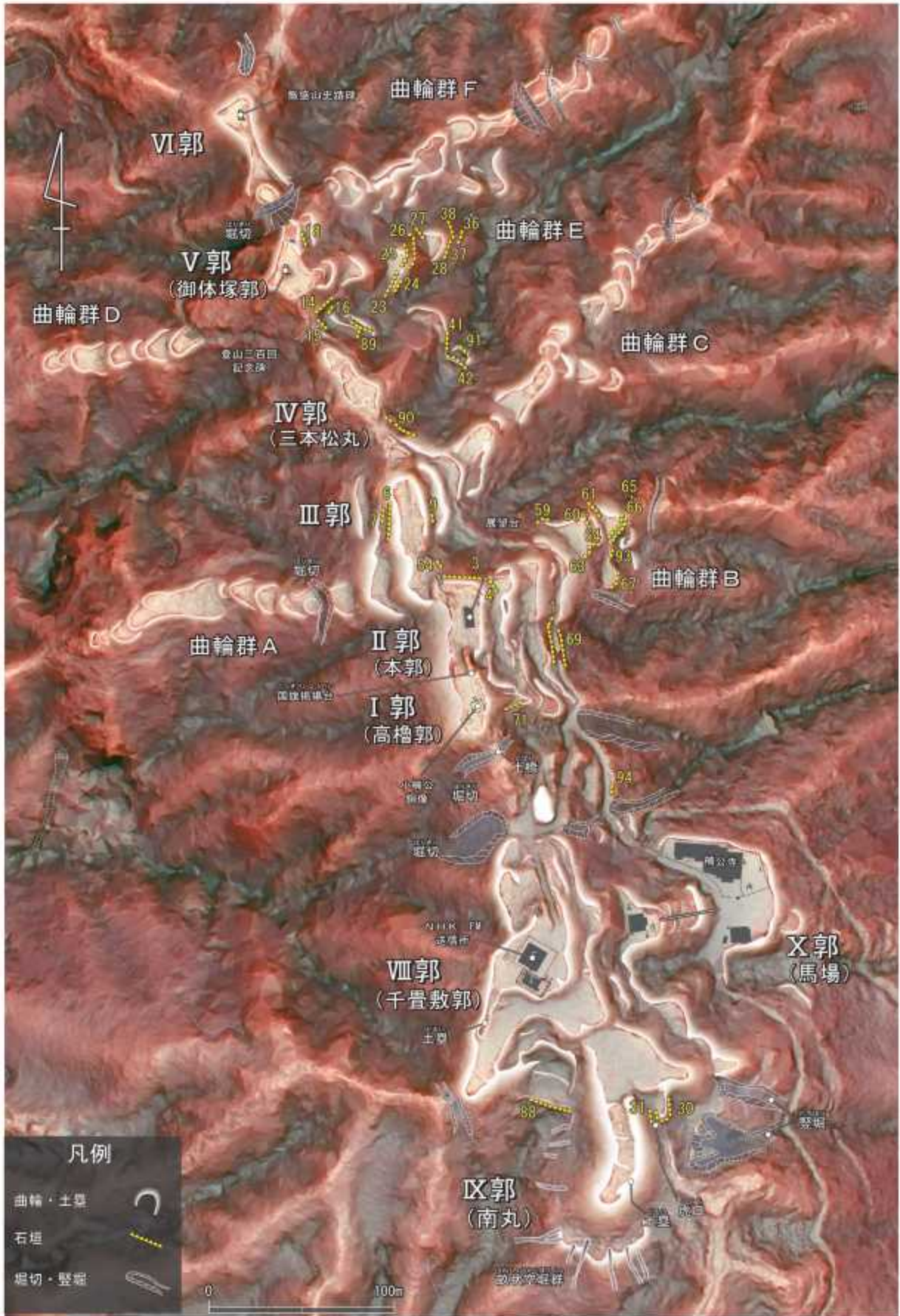


図2 赤色立体地図 飯盛城跡部分 (遺構を加筆)



図3 VIII郭・IX郭で確認された切土・盛土の範囲



写真1 虎口 石垣 30・31



写真2 虎口 石垣 41・42・91



写真3 V郭 (御体塚郭) 上空から



写真4 V郭 (御体塚郭) 露岩



写真5 V郭（御体塚郭）上空から



写真6 V郭（御体塚郭）露岩



写真7 VIII郭（千畳敷）・IX郭（南丸）上空から



写真8 17-2tr VIII郭（千畳敷）曲輪90の盛土 西から



写真9 曲輪112・石垣88 東から



写真10 石垣88 中央部



写真11 石垣88 根石

特別展 安土山築城前夜～戦国乱世の城

滋賀県立安土城考古博物館

学芸員 佐藤 佑樹

今回の特別展のテーマ

- ・安土城の評価…石垣の上に土壁や瓦を用いた重厚な構造物。内部は政庁や文化交流の場として機能。→近世の城の要素を兼ね備えた、「近世城郭の出発点」。
- ・それでは、信長はなぜ画期的な城を築くことができたのだろうか。…信長は当時の社会の中で築城も含めた様々な施策を実行していたのであるから、同時期の城郭の姿やあり方からも影響を受けているはず。
- ・本展では、安土城が築かれた近江国やその周辺地域における、守護大名(級)の人物が拠点とした大規模な城館遺跡を中心に取り上げる。各事例を見ることで、安土城が築城されるまでにはどのような構造の城郭や城館が存在したか、その中でどのような活動があったか確認。それにより、安土城とのつながり、もしくは異なる部分が鮮明になるのではないか。

戦国時代の城の諸相

各地に築かれた戦国時代の城館。それぞれに共通する要素と地域性。

・土師器皿

酸化炎焼成で製作された素焼きの皿。

地域性や各研究者の論じる立場などにより、「土師皿」「土師質土器」「かわらけ」などと呼ばれることもある。

各地で出土するが、特に武家儀礼や宴会を多く催していたと考えられる城館遺跡では大量に出土。

・茶道具

喫茶の文化は平安時代に日本に。戦国時代には庶民から將軍まで幅広い階層が嗜んだ。

芸能としての「茶の湯」は、武家にも広く受容され、教養となり交流の機会も醸成した。

これを裏付けるように、城館遺跡においても数多くの茶道具が出土。

・磁器の大型品(威信財)

戦国時代の日本では、磁器製品は中国を中心に海外から輸入。輸入品は「唐物」と呼ばれ、社会的地位の高い階層に愛玩された。

唐物は、室町幕府将軍の座敷飾りに関する秘伝書にも、飾るべき優品が記され、しつらえは当時の武家に共有された。

そこで最も珍重されたのは、金属製品や漆器であるが、遺跡からは出土しにくい。

一方、遺跡で多く見つかるのは、金属製品や漆器に準じる磁器の大型品。

出土する地点を居所としていた人物の権威を示す「威信財」と呼ばれることも。

・筆記具

現代と同じく、戦国時代も「文書行政」。

文書を発給する機会が多かったであろう城館遺跡では、硯や水滴などの筆記具も出土。

・居所の姿(庭園)

戦国時代の城館遺跡の発掘調査では、規模や構造が異なる複数の建物が検出されることがあり、異なる役割が与えられていたと考えられる。

居所の建物配置などの参考にされるのが、『洛中洛外図屏風』(上杉博物館蔵)に描かれる室町幕府将軍邸。

中でも特に注目される遺構→庭園。地面を掘り込んで造営されるので、遺構としてののりやすい。空間を確保しづらい山上部でも造営。

・石垣

石垣は主に織豊期以降に多用されたと考えられてきたが、全国の中世城館の悉皆調査や発掘調査が進展した現在では、織豊期以前の各地の城跡からも石垣(石積)が確認されている。

集計によると、石垣を築いた中世城郭の総数は、全国で764城に上る。

構築した時期、高さ、石材の大きさなどには地域性。

「天主」の登場

信長の上洛後、将軍やその家臣を中心に「天主」を備えた城郭を築く。

「天主」に葺かれた可能性がある瓦が大量に出土している。また本丸をはじめとした曲輪群には、石垣も多く築かれた。→本展の展示事例：勝龍寺城跡・坂本城跡。

一方、戦国時代以来の土師器皿や茶道具も出土している。→以前の城との連続性。

安土山築城

・織田信長は上洛後、近江国内で六角氏や浅井氏との戦争に勝利し、周辺諸国でも敵対勢力を討ち果たして天下を静謐にした。

・天正4年(1576)正月、信長は安土山において自らの居所の築城を開始し、天正7年(1579)には、天主が完成し移り住んだ→安土城。

・安土城内でみられる要素→土師器皿・茶道具・「威信財」(?)・筆記具・居所の姿(庭園?)・石垣・天主→戦国時代や安土山築城の直前に築かれた城と共通する要素。

・ただし石垣の構築数や高さはそれまでの城郭に比べて隔絶している。

- ・天主も以前に造立されていたものに比べて規模・装飾性を増す(金箔瓦など)。
- ・したがって、安土城に見られる要素は、基本的に戦国時代の近江やその周辺地域において蓄積されていた。ただ、一線を画するように発展させた側面もうかがえる。
- ・新興勢力である信長は、自らの実力を他者に見せつけ、圧倒する必要があった。そのために当代の技術や文化を、居所である安土城に結集し、昇華させたのである。

主要参考文献

小野正敏 2003「威信財としての貿易陶磁と場」『戦国時代の考古学』高志書院、木戸雅寿 2004『天下統一の城・安土城』新泉社、中井均 1990「織豊系城郭の画期―礎石建物・瓦・石垣―」『中世城郭研究論集』新人物往来社、乗岡実 2014「石積み・石垣」『中世城郭の考古学』高志書院、福島克彦 2021「城郭史上の明智光秀」『織田政権と本能寺の変』塙書房、松下浩 2014『織田信長 その虚像と実像』サンライズ出版、当館令和8年度特別展図録

図面・写真の出典

図1：当館作成、図2：Q 地図・国土地理院に加筆、図3：長岡京市教育委員会提供に加筆、図4：滋賀県提供に加筆、写真1：津市教育委員会提供、写真2：当館撮影、写真3：福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館・津市教育委員会提供、写真4：藍住町教育委員会提供、写真5：大東市歴史民俗資料館提供、写真6：山県市教育委員会提供



図1：今回の展示で取り扱った遺跡



写真1：北畠氏館跡 土師器皿 南伊勢系(左)、京都系(右)



写真2：観音寺城跡 天目茶碗(左)、建水(右)



写真3：一乗谷朝倉氏遺跡 青磁花生(左)、
北畠氏館跡 青磁水鳥形香合(右)

写真4：勝瑞城館跡 池泉庭園



写真5：飯盛城跡 石垣 69

写真6：大桑城跡 伝「岩門」

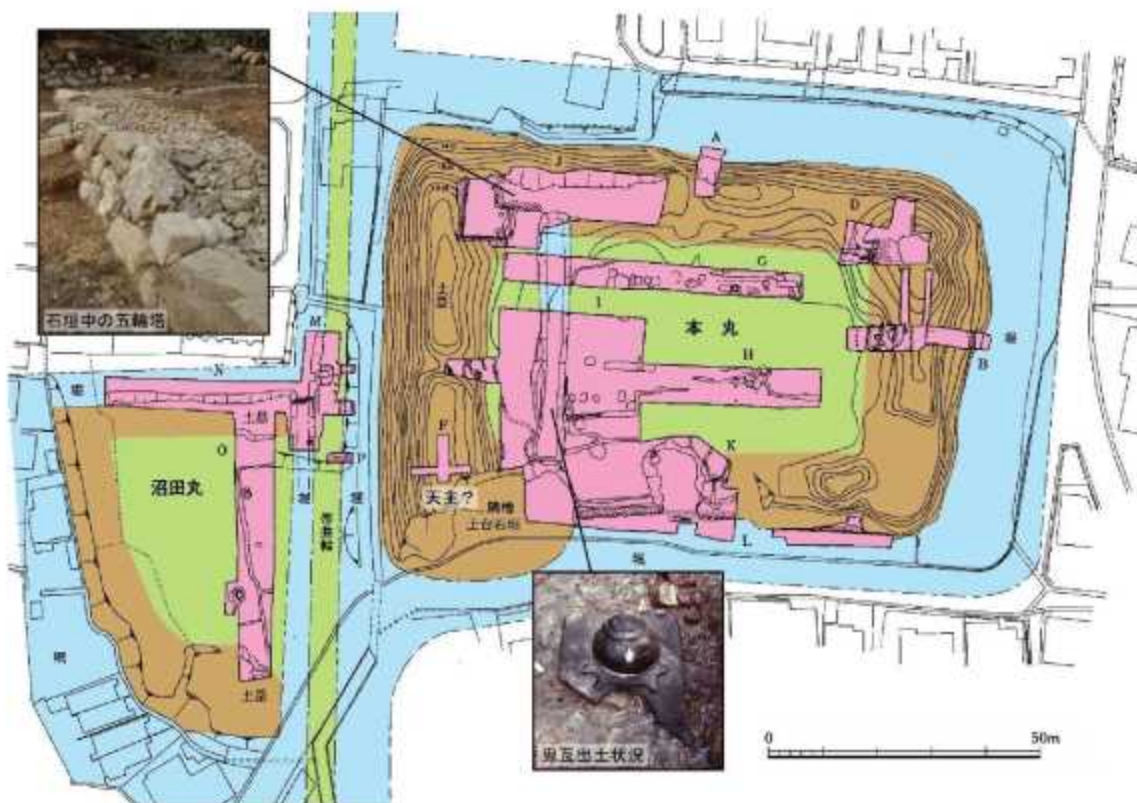


図3 本丸・沼田丸調査地平面図



図4：安土城跡主郭部平面図と復元CG